

令和6年度 第2回二宮町町民活動推進委員会 議事録

日 時：令和7年2月6日（木） 18:30～19:30

場 所：Zoom 会議

出席者：手塚委員長、丹羽委員、高見委員、一石委員、松永委員、山岡委員、志賀委員

欠席者：大河原副委員長、馬場委員

事務局：地域政策課3名

傍聴者：0名

1. 開 会

2. あいさつ

（委員長）先日、町民センターで大学の先生のヒアリングを受けた。二宮町の町民活動はどのような感じで受け止めているか、という内容であった。あまり行政と一緒に何かするというのではなくて、自分たちのやりたいことをやり始める町民の方がとても多い。なおかつ割と広い心で受け止める方が多いのではないかという話しをした。割と新しい人の動きを阻害せず動いてるところがあり、二宮町ならではの原動力になっていると感じた。ただし、高齢化も進んでいるので、その辺りをもう少し力を入れたり、みんなで協力し合ったりするようなことがあると良い。また、町民活動サポートセンターの部屋を使いながら発展的に物事を進めるところまでは、なかなか行っていないようなので、場所としてはもったいない。

2021年とか22年に立ち上がった団体の動きが目覚ましいと感じている。若手の活動が少し目立ってくるようになってきた。

3. 議題

（1）町民活動団 thể現場確認報告について

・「わかなご席亭会 7月20日」について丹羽委員より報告

（委 員）二宮町はもしかしたら落語と相性が良いかもしれない。でもそれは「かもしれない」であって誰もわからない。やってみなければわからない。そういう意味において、若干なりとも補助金を交付するのは有効なのだろうと感じた。

行政サイドの役割も非常に重要だと思う。どうなっていくかわからない。やってみながらその反応も見つつ臨機応変に交通整理をするのが重要である。

落語家の桂銀治さんは町の新春のつどいにも出ていらっしやって、良いスタートであったと思う。

(委員長) とても素敵な会である。新しい団体なので、しっかりと温かい目で見守っていき
たいと思う。

・「あそびの庭 7月29日」について高見委員より報告

(委員) いわゆる町民活動のお手本になるような活動だと思っている。

この現場確認の日以外にも一、二ヶ月に一回、現場に行って団体の人と話しをして
いる。「不登校」という言葉が一言で片付けられてしまって、みんな同じイメ
ージを持つが、何回も話しているとそれぞれみんな違うことに気付く。

その「みんな違う」ということを、いろんな人にわかってもらうのはすごく大変
だと思う。

新しい活動の先駆けのような気がした。

・「あそびの庭 9月9日」について山岡委員より報告

(委員) 高見委員がおっしゃるように、本当に素晴らしい活動だと感じている。

子どもの利用者や協力するスタッフが増えており、寄附金も増えてきて、活動も
広がり地域とのつながりも強くなってきている。

行政の「やまびこ学級」があるが、そこでできないような活動をしている。

ただ、課題もあるが、何らかの方法できっと解決して進めて行かれると期待して
見ている。

・「あそびの庭 10月21日」について松永委員より報告

(委員) 今の社会、何かに追われて過ごすようなことが多いと思うが、活動現場に行った
時にまず感じたのが、とても居心地が良く時間を忘れるほどであった。

本当に時間がゆっくり流れていて、自由に活動されていて、このような場所はな
かなか無いと感じた。

子どもたち中心ということではあったが、そこにはやはり保護者や地域の方も
いて、大人たちのコミュニティというのがそこで形成されていると感じた。

希薄化が進んでいる地域のつながりというのが、そういった大人たちの居場所
にもなり得るということにすごい期待を持った。

しかし、補助金交付限度である3年目になるということで、やはり資金面がかな
り厳しいとのことであった。

本当に良い活動をされているので、いろんな方に声をかけて、もっと共感してい
ただける方を増やしながらこの場所が継続していけるよう皆さんで協力してい
ければと思った。

・「あそびの庭 11月10日」について手塚委員長より報告

(委員長) 現場確認に行った際、丁度はらっぱベースを利用している児童の学校の課外授業のようなものをやっていた。

先生もいたがお互いに抵抗感もなく、気軽に近所のおじさんと話している感じの会話をしていた。

現代はこのように「学校に行かない」ことを受け止める時代になっており、それをみんなが許容していたのは驚いたが、それはそれで良いと感じた。

と、思う一方で皆さん口を揃えておっしゃるように資金面、人材面でやはりとても困っている。

比較的まだ財団系の助成金もあるので活用してほしい。

報告が終わったが、何か意見や質問はあるか。

(委員) あそびの庭には「いつでもどうぞ」というコンセプトを持っており、いつでも来ていいよ、という存在もかなり貴重かと思う。そのような場所を求める人から需要はあるので、今後も続けてほしい。

(2) 二宮町町民参加活動推進条例施行規則の改正について

(事務局) 第6条で記載のある、委員を組織する者の中から「町職員」を削除する。

近隣市町の委員を調べても職員が入っているところは少ない。

(委員長) 審査会だと職員が入っているところは多いが、推進委員会ではどうか。

(委員) どちらでも良いが、いるならいるで意味はあるかと思う。

(委員) この施行規則を作った時にどのような意図があったかが気になるが、いてもいなくても議論の結論が変わるとは思わない。

(委員長) 補助金審査の中で職員の方に訊かないといけないこともあるかも知れない。

(事務局) 町民活動推進委員は本来、町の諮問機関であり「特別職」になる。そこに行政職員が入っているのもどうかと思う。事務局サイドに近いオブザーバーのような立ち位置でいるのが一番良いのかと思う。

(委員長) 了解した。会議資料のとおり改正で進める。

(3) 令和7年度二宮町町民活動推進補助金募集のお知らせについて

(事務局) 前年度委員会の中で意見があり、補助金制度のキャッチフレーズをつくる話があった。補助金制度がまだ浸透していなく、応募する団体の底上げをするために目

につくキャッチフレーズをつくる運びとなった。事務局案として4つ作成した。

(委員) キャッチフレーズの問題ではなく申請手続きが面倒であったり、ハードルが高いと聞いたことがある。実際、そんなに高くはないのだが書類の数は多いかもしれない。

(委員) 4案どれでもいいし、4種類すべて作っても良いかと思う。

(委員) どれもいいが全て肯定的な言葉なので、あえて「それでいいの？」のような否定的な言葉でも挑戦的な感じがして面白いかもしれない。

(委員) 役所が作る文書は堅苦しいので、せめてこのキャッチフレーズのような工夫は良いと思う。4つどれも良いと思うが、制作者に任せて良いのではないかな。

(委員長) みなさんから意見があったがどうか。

(事務局) 表紙だけ変えれば良いだけなので、4種類作成するのは如何か。

ホームページに掲載する際は、数か月に1度、キャッチフレーズが変わっても良いかと思う。

(委員長) それでよいと思う。更新の頻度は任せる。

(事務局) 変更点があとひとつあり、応募方法だが、今までは窓口への提出だけであったが、次年度よりメールによる提出も可能とする。その方が申請のハードルが下がるのではないかと思う。

(委員長) オンラインで補助金申請する財団も多くある。下書きしてからフォームに数字を入力するので、かえって二度手間になることもあるが、夜中でも申請ができるのは良いかもしれない。トライアルでやる価値はあるだろう。

この件に関して以上でよろしいか。

(4) 令和7年度二宮町町民活動推進委員会について事務局より説明

(委員長) 5月24日の土曜日に報告会とプレゼンテーションを予定しているので、委員のみなさんは予定を空けておいてほしい。

(事務局) 10時から予定しており、場所は町民センターの2Aクラブ室になる。審査や結果報告などすべてが終わるのは12時となる。

(5) その他

(事務局) 一石委員が都合により今年度いっぱい辞任される。

(委員) 自分が審査を受ける側の頃から様々な面で専門家の方からアドバイスをいただき、大変心強かった記憶がある。町民活動をしている方々と話しても、このようなアドバイスをいただける委員の存在は貴重であるとよく耳にする。

今までたくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

(委員長) 町民活動の経験を持つ若い方が委員でいるのは貴重であった。

議題は以上であるが、みなさん、何かあるか。

(委 員) 3年間補助金を交付した団体がその後何をやっているか、事務局からアンケートを送って、動向を確認すべきではないか。中には活動が不明な団体がある。

また、「あそびの庭」さんが出てきたころから、今までと違う次元の活動であると感じた。これらの活動は年間 20 万円の補助金で成り立つものではない。良い意味でレベルが上がってきたので補助金の制度を考え直す時期かと感じた。

(委員長) 補助金交付後の調査はとても大事で、限度である交付回数が終わったら活動を止めている団体を知っている。その辺りの掘り起こしをしても良いかと思う。

(委 員) 協働事業等を現実的に考える時期に来たのではないかと思う。

(委員長) この委員会の中でまた議論できればと思う。

4. 閉 会